

令和5年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生第三小学校 第2学年3組 担任 ○○ ○○

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	5 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	84.6%	92.1%
		25 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	61.5%	83.5%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	92.0%	91.7%
	目標の達成	10 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	61.5%	58.3%
		15 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	88.5%	89.1%
	他者との協働	56 わたしは、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	53.8%	72.2%
	学力と関係が深い質問	3 本や新聞を読んでいる。	69.2%	68.1%
		19 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。	84.6%	86.4%
20 学習を始めたら、他のことに気を取られないで、集中している。		80.0%	90.2%	
領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	言葉・情報・言語文化	○全国平均正答率を1.5ポイント上回り、(漢字の読み(白いうさぎ))設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を7.4ポイント下回り、(ひらがな長音を選ぶ)設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を6.4ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を11.0ポイント下回り、(文章中の説明に沿って空欄に合う内容を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を12.9ポイント下回り、(場面の様子を読み取って抜き出す)設問に課題がある。		
算数	数と計算	○全国平均正答率を1.1ポイント上回り、(1位数+1位数の計算をする(繰り上がりあり))設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を26.6ポイント下回り、(魚の絵の後ろから2匹を○で囲む)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を1.8ポイント下回り、(転がりにくい立体を選ぶ)設問に課題がある。		
	測定	○全国平均正答率を0.1ポイント上回り、(方眼をもとに一番長いものを選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を16.8ポイント下回り、(指示された時刻を指している時計を選ぶ(4時55分))設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を2.2ポイント下回り、(絵グラフにあるものの個数を答える)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>「家の人は自分を気にかけてくれていると思う」や「自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある」等が全国平均を下回っており、自己肯定感が低い児童が多い傾向にある。一方で、「自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う」は全国平均を上回り、学習に前向きに取り組むことができる児童が多いと考えられる。</p> <p>国語においては漢字の読み書き、算数においては計算などの設問の内容が単純な問題の正答率は高い傾向にあるが、設問の内容が複雑になると正答率が下がる傾向にある。このことから、生活経験の無さやもっている語彙の数の少なさから、設問の意味を正しく捉え、思考する力が弱いと考えられる。</p>		<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ、読書活動の推進をする。 書く指導の際には、モデル文やスモールステップを活用し、自分の力で書くことができるようにする。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習にて既習事項の振り返りをこまめに行うとともに、実態に即した課題を用意し計算領域の定着を図る。 具体物を使った数学的活動の活用 生活科や様々な場面で生かす。 <p><その他の教科等></p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動を通じて個人尊重を指導する。 互いに認め合う学級づくりを行う。 		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童 100% (26人/26人中)		
確認テストの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童 100% (26人/26人中)		

